

第三者意見



東北大学大学院環境科学研究科
環境・エネルギー経済分野 准教授

馬奈木俊介 氏

今年度のレポートで取り上げられた震災後の対応は、多くの人の興味があるところであると思えます。例えば、道路に関して応急処置をして、その後どのような道路に変えたかは気になることです。より長持ちする高機能な道路に舗装し直す作業を始めており、環境に配慮した道づくりの提案内容は、被災地域の復興はまだ終わらないことを考えると、ぜひ来年も記述をお願いしたいと思います。

これまでの災害の経験および、今回の災害から、普段使っているものほど危機管理に役立つことが分かってきました。災害に強いまちづくりへの貢献はNIPPOにとって社会への大きな貢献です。

今回、多くの人が事前に認識していなかったものに高盛土構造の仙台東部道路の役割がありました。津波に対する堤防効果をあげており、震災時の道路上への避難だけでなく、西部への津波の被害を防ぐという最も津波対策として重要な効果がありました。他地域にも海岸近くの高速道路は多くあることも考えますと、万能の堤防はありませんので、従来の堤防だけでなく通常道路として使っている堤防道路に、これまで以上に堤防の役割を持たせるということは現実的に可能

であり、重要な役割であるといえます。

同様に危機管理というものは、普段の行動の延長にあるものです。NIPPOのように確かなものづくりを通して危機が起こった際にも対応できるまちづくりに貢献という重要性は今後も重要視されると言えます。どのようなリスクを想定して設計しているかの思想が分かる内容をさらに来年には期待したいと思います。イノベーションとして評価されている遮熱性舗装や、地震時にアスファルト舗装の崩壊と路面の段差発生を抑制できる工法など個々の技術の関係性がさらに分かることで道路のさらなる必要性が理解されていくと言えます。

そのためには、今年度の「読者の声を受けて」のNIPPOの考えを伝える試みは良く、評価できます。個々の技術やイラストなど分かりやすい情報の発信、コミュニケーションへの取り組みが書かれていて面白いページです。2011年度は、700件以上もアンケートの回答があったそうです。誌面の都合から、掲載できる回答数には限りがあると思いますが、WEBを通して順に簡単にでも答えていくことで取り組みの理解と共感がさらに得られると思います。

ご意見をいただいて



環境安全・品質保証部長
北村一博

馬奈木先生には、過分な評価と貴重なご意見をお寄せいただきまして厚くお礼申し上げます。

昨年ご指摘いただきました東日本大震災後の支援については、「特集 東日本大震災を受けて」を設け、震災

直後からようやく本格化してきた道路の本復旧において、当社の組織力、技術力、提案力を結集し貢献していることをご紹介させていただきました。今後も、事業を通じて防災に役立つ安心・安全な技術を提供し、災害に強いまちづくりに寄与していきたいと考えております。

今回、「読者の声を受けて」を新設しましたが、これからも双方のコミュニケーションをとりながら、皆さまのご意見を踏まえて、より一層充実したCSR活動に取り組んでまいりたいと思います。